

ちよんごご語

第一七六号 度 はかる)

お百度を踏む、お百度参りとは、決められた場所を百回往復して参拝し、神仏に願いをかなえて頂く願掛け参りの事です。度とは一種の決め事を指し、昔から良く使われています。仏教では、衆生済度と言って仏様が我々の悩み、苦しみを除き、救いの手を差し伸べて下さる言葉があります。それから得度」といって覺りを得るといふ言葉もあります。又、出家することも得度といひます。仏教徒の心得に『帰依文』があります。大身受け難し、今すでに受く。仏法聞き難し、今すでに聞く。この身今生において度せずんば、いずれの生においてかこの身を度せん。大衆もろともに至心に三宝に帰依したてまつる。」と、内容は、ちよんごご語の「行きつ戻りつ」の中で説明した通りです。

一般的に使われる「度」にも色々あります。例えば「度を越す」とは社会通念から外れたと思うところに発生する言葉でしょう。自分の能力であったり、集団としての能力であったり、或は天災地変の破壊力であったりします。その他にも、度合・頻度・度量・温度・度数・度牒・度脱・度外れ・度盛り・風度・重度・緯度・経度・鮮度・等ありますが我々仏教徒は「度が過ぎる」様な行動を慎み、間違っても「態度」がでかいなんて言われないようにしましょう。

安穩に暮らす為に行政のほうでも色々制約を作り人命の安心安全に心掛けています。建築にも建築基準がありますし、食品衛生法等、我々が生活をして行く上で様々な基準に遭遇するわけです。それは我々の生命を保つ上で最低限の保障をしてくれているのでしよう。しかし一度大きな災害に見舞われますと、そこには「度を越した」現実が待っているのです。広島の中豪雨による土砂災害、七十数名の尊い命が失われてしまいました。避難勧告を出す情報伝達の難しさです。先のことはずべて予測ということですが、災害を被る可能性を否定して造成建築を許可したとなれば大変なことです。最終的には地域を預かる市町村の問題と言う事に成るでしょう。すべてに於いて最終判断は人間に委ねられています。自然が暴れだす時、人間の想像を超えたパワーに思い知らされるのです。避けて通れるものならば誰しも避けて通りたいと思います。愚痴を言わないで済む生活したいものです。なぜなら愚痴とは愚かで智恵のないことですから。碧巖録に「日々是好日」とあるも、尋常では無い。一休禅師の雨降れば降れば、風吹けば吹けば、良寛禅師の死ぬ時がきたら死ぬば良い。見識の上で言い切ることができれば問題はないのですが、私何ぞ、まず無理でしょう。我々にとって平和に過ごせた日々が一体何日あったであろうか。なかなか度脱できません。〇〇の為に〇〇すべきである。こういったうたい文句には特に注意が必要です。経済にしろ、環境にしろ、世の為人の為との大義名分を作るも裏で実際には営利が絡み、多くの人々を踏み台にしてしまう事が多いのです。自分の身を立てることや、自分の都合を通す時に使う事が多くなるからでしょう。特に責任ある方がお使いになられるようです。自分の為ではなく世の中の為に尽くす度量の広い人が増えないといけません。

二十六年十月一日

善養寺入院油掛地藏尊